



駒本の力

駒本小学校(家)
教育活動紹介便り
校長 田中 克昌
NO. 19
平成28年2月1日

「どの子ども伸ばす、駒本の教育」 8

校長 田中 克昌

「どの子ども伸ばす、駒本の教育」も8回目になりました。今回は、授業のユニバーサルデザイン化の視点である、「意欲化の取組」について続きを解説します。

【意欲化の取組】

学びを支える基本的なものは、子どもたちの意欲です。どんなに優れた教材を用意しても、子どもたちに学びたいという意欲がなければ、受け身で終わってしまいます。学習意欲なくして学びなし、です。そのために、先生方は多くの努力と工夫をしています。

意欲という言葉に別の言葉に置き換えてみると、子どもたちの心に火をつけるということです。英語ではインスパイアと言

います。では、どうすれば子どもたちの心に火をつけ、インスパイアできるのでしょうか。まずは、やってみたい挑戦したいと思える課題を示すことです。さらに、そこに子どもたちがやりたいと思える状況を組み込むことです。劇化や動作化などは、楽しい活動ですので、子どもたちの意欲を高めます。また、発表会というのも意欲を高めます。特に、他の学年の児童への発表や保護者への発表が意欲を高めます。このようにちょっとした状況を工夫するだけでも、子どもたちの意欲は違ってきます。誰かの役に立つという気持ちが存在するかどうかということも大切です。5年生が八ヶ岳の移動教室に行った。その成果を次に行く、4年生に役立ててもらうために発表しよう、となると誰かに役に立つという気持ちをもつことができ、意欲を高めることができるわけです。

学習を形成する上で、一番大切なことが意欲を高めることです。それも、どの子の意欲も高めることです。これからも子どもたちの意欲を高める工夫に努力していきたいと考えています。

ここまでで、授業のユニバーサルデザイン化の5つの視点である、構造化、視覚化、焦点化、共有化、意欲化についての説明は終わります。次回は、個別的な支援の方法について考えていきたいと思えます。

意欲化例



<学習活動の工夫>
劇化・動作化、他の学年や保護者に向けて発表

ミニ音楽会に見る駒本の力

1月23日(土)は本校の土曜授業公開の日でした。1、2校時にミニ音楽会を実施しました。題名はミニとしましたが、内容はミニではなく、どの学年も4曲5曲と普段の音楽の学習の成果を遺憾なく発表しました。この音楽会の特徴は、音楽会用に用意した曲ではなく、日常の音楽で学習した曲を発表しているところです。



体育館には、保護者用に椅子を180席ほど用意したのですが、立ち見になってしまうほどの保護者の方や地域の方にご参観いただくことができました。ありがとうございました。音楽の教員の話によると、子どもたちはこの発表会に向けて合唱や合奏の力を高めてくれたということです。保護者の皆さんに、自分たちの学習成果を発表したいという意欲が子どもたちの力を高めてくれたようです。

合唱だけに焦点を絞って、駒本の力をお知らせします。1年生で特徴的なことは、高音の頭声発声ですでにできているということです。きれいに響く歌声がそれですが、1年生が頭声発声できるというのは、高い力の表れです。2年生は、頭声プラス、ボリュームのある声が出ていたというのが特徴的でした。頭声でボリュームがあるというのも指導としては難しく、高い力です。3年生は、ボリュームがあり表現豊かな歌声でした。詞の意味を理解し、それを豊かに表現できていたというのは、とても立派でした。4年生は、人数は少ないものの、「つばさをだいて」は秀逸でした。頭声プラス、ボリュームがあり表現も豊かでした。そして、5年6年生、特に合唱組曲の「鮎の歌」は圧巻でした。声変わりの時期であったり、恥ずかしさが出てしまいがちな高学年で、あれだけの合唱ができるのは、駒本自慢の高学年です。このように合唱だけ見ても各学年の子どもたちは、確実に力を高めています。日常の学習の成果をこのような形で発表でき、たくさんの保護者の方に聴いていただけたことは、子どもたちにとっても高い達成感や満足感を得ることができ力を高めた、音楽会となりました。

道徳授業地区公開講座

3校時の講演会には、75名もの保護者の方にご参加いただき、校長のつたない話ではありましたが、アサーションについて一緒に考えていただけたこと、感謝申し上げます。前回の教科公開講座とほぼ同じ数の保護者の方にご参加いただけたこと、駒本小の保護者のみなさんの学校教育に寄せる期待の大きさと、支えてくださる「力」を感じました。4校時には、そのアサーションプログラムにそった道徳の授業を公開いたしました。保護者のみなさんの感想には、学校の取組をご理解いただき、今後の指導に期待するお声をたくさんいただきました。ありがとうございました。